



Spotlight

スポットライト

月浦獅子舞 保存会

湖 畔にほど近い月浦の森の中。木々の間にたたずむ月浦八幡神社では年に1度、笛や太鼓が響きます。音に合わせて踊るのは、月浦で受け継がれてきた獅子舞。地域の人々の祈りを乗せて、120年以上にわたって守られてきました。

月浦獅子舞は、現在の香川県三豊市の移住者から伝えられたとされています。1900年に月浦八幡神社が建立され、「月浦獅子舞」として継承。68年には月浦獅子舞保存会が発足し、同年、旧蛇田町の指定無形文化財第1号に認定されました。

125年を数える長い歴史の中では、戦争、離農者の増加などによる人口減、新型コロナウイルスの流行など数多くの危機がありました。それでも、毎年9月14、15日に行われる月浦八幡神社の例大祭で1度も途切れることなく奉納されてきました。

貴重な文化を守るために力を尽くす保存会の皆さんは「以前、舞子をやってくれた子どもたちが大人になって月浦に戻り、今また協力してくれています。まだまだ続けていこうと成り手を集めてきました」と話します。長年、活動してきた岡崎進さんは息子、孫も笛や舞子として参加。3代で関わりを保っています。同じように伝承に協力

してくれる月浦の人々がいたからこそ、長い歴史を紡いでいくことができました。昨年は、発祥の地である香川県に里帰り。振り手、舞子など7人が高松市で開かれたお祭りに参加しました。生まれ故郷では、皆が「大歓迎だった」と振り返る歓待ぶり。県内各地から集まった獅子舞を目の当たりにでき、大きな刺激を受けました。

今年も月浦八幡神社では無事、奉納が行われました。衣装と花笠を身に着けた子どもたちが太鼓を打ち鳴らし、薙刀を閃かせると獅子が登場。笛と鐘が響く中、たてがみのような毛を振り乱して境内を舞いました。

最後は観客の邪気を払うため、頭を回りました。一見恐ろしい表情に顔を曇らせる子どもたちの姿も、もうおなじみの光景。普段は静かな月浦で年に一度だけ現れる獅子舞と祭りばやしには、この地に暮らす人々の手で守られてきた伝統が今も確かに息づいています。

東奔西走

北 海道でもついに線状降水帯が発生。町内も激しい雨に見舞われました。雨が降るとよく眠れる性格なのですが、今回は不安を感じるほど大きな雨音に。我が家の防災を見直すことにします。(D.Y)

最 近は、日中と朝・夜の寒暖差が激しく、体調を崩しやすくなる時期です。私の周りでも風邪やコロナウイルスにかかってしまったというお話も耳にします。体温調整がしやすい服装にするなど工夫して秋・冬に備えましょう。(Y.A)

町公式LINEを友だち追加！

イベントや防災など様々な情報に加え、フルカラー版広報紙もご覧いただけます！

